

延岡小学校 令和6年度 自己評価書及び学校運営協議会委員評価書

(4段階評価 4・期待以上 3・期待通り 2・期待を下回る 1・改善を要する)

評価項目	評価項目	学校の自己評価コメント	自己評価				学校運営協議会委員評定	学校運営協議会委員 評価のコメント
			児童	教師	保護者	総合		
学校像	活気ある学校	○ 学校は、「気付き、考え、幸動する児童」の育成に努めるために、様々な教育活動に取り組んでいる。	3.4	3.0	3.3	3.3	3.2	・HPやブログで児童の活動を紹介することで、学校の様子がよく分かる。 ・防災について関心が深まっている中、さらに防災教育の充実を図ってほしい。 ・限られた時間環境の中で、創意工夫された様々な取組を行っておられることに敬意を表します。 ・とある小学校PTAから、ある日、「延小って、正門に柵がないよね。」「どこからでも出入り自由だよね。」と言われました。私は、初めて気付きました。 セキュリティを意識したことがありませんでした。 ・市内の小学校のあちらこちらで「幸動」という目標を掲げられているを散見するが、苦言を呈するならば、「どういう意味?」と一般市民からたずねられる事もある。具体的な内容や細かい指導方法を聞くと納得できる部分もあるが、児童・保護者及び関係者全てが理解できるよう我々も努めたい。
	美しい学校	学校は、子どもたちが安全で安心した学校生活が送れるような教育環境づくりに取り組んでいる。	3.4	3.1	3.4			
	地域に根ざした学校	学校は、ふるさと教育・キャリア教育・福祉教育・ICT教育の充実、推進に取り組んでいる。	3.5	3.0	3.3			
児童像	気付く子	○ 「気付く子」については、児童・保護者の評価は高いが、教師の評価が低めである。教師がさらに、よりよい児童の姿を目指して指導していることがうかがえる。 児童によりよい姿を具体的に伝えるとともに、児童のよい行動や思い、考えについても、教師間で共有したり、評価していく必要がある。そのためには、児童と日頃からコミュニケーションをとることや、定期的なアンケート等を通して、児童理解ができる手立ての工夫をしていく必要がある。	3.3	2.9	3.2	3.0	2.9	・子どもたちが、眞面目に授業に取り組んでいる様子が見えた。どの学級も落ち着いた雰囲気の中で授業が進められていた。 ・掲示物もしっかりとしていた。 ・「幸動する子」という意識が児童に定着しつつある。更に「見える化」を図ってほしい。 ・児童・保護者と教師の評価の差については、児童には十分理解することが難しい面があること、保護者も子ども目線で捉えるであろうと考えると、やむを得ない面があるのではないかと思います。 ・子どもたちは、学年が上がるごとに目指す児童像に対する理解が深まるものと考えます。 ・朝のあいさつも、昨年と比較して、非常にアップしています。 ・朝の立ち番・見守り中に、ゴミが落ちていたと届けた児童がいた。5円玉が落ちていたと質問があった。 ・友達を友達と思わない子、先生を先生と思わない子、少数ですが、少なからずいると思います。 ・多様な子どもたちがいるので、「目指す児童像」という項目で評価することに違和感がある。子どもたちに強制的に目指せるものではなく、大人が伝えたい大切なこととして評価するならば、教師の頑張りは高いと感じる。一方、教師だけでなく学校以外の大人たちがもっと学校に関わり、子どもたちに伝える機会が増えるとよい。
	考える子	○ 「考える子」については、児童・保護者の評価は高いが、教師の評価が低めである。教師がさらに、よりよい児童の姿を目指して指導していることがうかがえる。 今後もさらに、道徳教育やキャリア教育、特別活動等の指導を充実させるとともに、様々な機会をとらえて、時と場に応じて正しく判断できる力(判断力)を身に付けさせる指導の手立てを工夫していく必要がある。また、児童に成功体験を積ませながら、自己実現できる喜びも味わわせていく。 子どもたちは、時と場に応じた正しい判断をしている様子が見られる。	3.3	2.8	3.0			
	目指す児童像	○ 「考える子」については、児童・保護者の評価は高いが、教師の評価が低めである。教師がさらに、よりよい児童の姿を目指して指導していることがうかがえる。 今後もさらに、道徳教育やキャリア教育、特別活動等の指導を充実させるとともに、様々な機会をとらえて、時と場に応じて正しく判断できる力(判断力)を身に付けさせる指導の手立てを工夫していく必要がある。また、児童に成功体験を積ませながら、自己実現できる喜びも味わわせていく。 子どもたちは、家族や友達、学級・学校がよくなることについて考えている様子が見られる。	3.1	2.4	3.1			
児童像	幸動する子	○ 「幸動する子」については、児童の評価は高いが、教師や保護者の評価が低めである。教師や保護者がさらに、よりよい児童の姿を目指していることがうかがえる。 児童は、ウェルビングボードを活用して、自主的に異学年遊びや草抜きなどのボランティアの計画を立てて実行する姿が見られた。また、児童へのアンケートからは、地域でのごみ拾いやあいさつ、家での手伝い、友達へ優しく接したことなど、自ら考えて行動していたことも分かった。今後もさらに、児童の実態を把握し、認めたうえで、称賛したりしながら、「幸動」する児童を育てたい。 子どもたちは、周囲の人のために何か行動を起こしている様子が見られる。	3.2	2.9	3.2	3.0	2.9	・子どもたちは、学年が上がるごとに目指す児童像に対する理解が深まるものと考えます。 ・朝のあいさつも、昨年と比較して、非常にアップしています。 ・朝の立ち番・見守り中に、ゴミが落ちていたと届けた児童がいた。5円玉が落ちていたと質問があつた。 ・友達を友達と思わない子、先生を先生と思わない子、少数ですが、少なからずいると思います。 ・多様な子どもたちがいるので、「目指す児童像」という項目で評価することに違和感がある。子どもたちに強制的に目指せるものではなく、大人が伝えたい大切なこととして評価するならば、教師の頑張りは高いと感じる。一方、教師だけでなく学校以外の大人たちがもっと学校に関わり、子どもたちに伝える機会が増えるとよい。
	目指す教職員像	○ 「幸動する子」については、児童の評価は高いが、教師や保護者の評価が低めである。教師や保護者がさらに、よりよい児童の姿を目指していることがうかがえる。 児童は、ウェルビングボードを活用して、自主的に異学年遊びや草抜きなどのボランティアの計画を立てて実行する姿が見られた。また、児童へのアンケートからは、地域でのごみ拾いやあいさつ、家での手伝い、友達へ優しく接したことなど、自ら考えて行動していたことも分かった。今後もさらに、児童の実態を把握し、認めたうえで、称賛したりしながら、「幸動」する児童を育てたい。 子どもたちは、自分の将来や自らの成長のために、何か行動を起こしている様子が見られる。	3.4	2.5	2.9			
	目指す教職員像	○ 今年度の主題研究では、「学力向上を全ての子ども達に!~児童のよさに気付き、認めるスクールワイドPBS(ポジティブな行動支援)を生かした授業の工夫・改善を通して~」をテーマに取り組んできた。特に、授業改善の取組として、代表教職員が研究授業(2回実施)を行い、その授業に係る成果と課題について全教職員で協議し、授業の工夫・改善について共通理解を図りながら、日々の授業実践に取り組んできた。その実践を通して、児童のよい取組やできたことを褒めることを行い、ずいぶんと自信や意欲をもつ児童が増えてきた。今後も、特別支援教育の視点を生かした授業づくりを行うことで、一人一人の学力向上を目指し、個への対応を丁寧に進めていきたい。 保護者や地域の方々の願いを知るために、コミュニケーション・スクールのさらなる充実を目指し、子どもたちの育成について共に話し合いができるようにしたい。 職員は、子ども一人一人の思いや願いに寄り添い、よさを認め、自信と意欲をもたせている。	3.5	3.0	3.3			・信頼される教師であってほしい。 ・言葉遣い、服装など、子どもたちの見本であってほしい。保護者と共に子どもたちを支える先生に。 ・読書と作文の充実。 ・児童・保護者と共に、先生方の取組を高く評価していることが何よりも思っています。 ・熱心な先生方に恵まれています。 ・私が知る限りの現在の延岡小教職員は、非常に熱心に子どもたちと向き合っていると感じる。しかし、逆を言うと、頑張りすぎてバーンアウトしないか心配になる。もっと外部を頼り、自身を大切にしてもらよい(管理職も含む)。
保護者像	目指す保護者像	○ 「目指す保護者像」の評価については、全体的に高い結果となっている。しかし、児童・教師・保護者それぞれの意識や考え方の差が出ている。今後も、教師の考え方や意を伝え、理解していただくためにも、学校と家庭(保護者・児童)との機会に応じた対話が必要である。 学級・学年通信や延小ブログなど、学校の様子について積極的に情報発信することにより、保護者が配付物に目を通したり、学校の出来事などについて親子の会話をしたり、宿題等を確認したりするなど、保護者の学校への関心が高いことがうかがえた。 子育てについては、家庭において多様な考え方があるため、学校としての考え方を、参観日や学年・学級通信を利用して伝えたり、個人面談で直接話したりと、子どもの成長に向けて、互いに情報を共有するとともに、家庭への啓発を行っていく必要がある。 児童の中には、ゲーム依存やスマートフォン依存になっている実態がある。基本的には、家庭において、きまりや約束事を決め、保護者の管理の下、よりよい利用をしてほしい。学校からお願いする「生活リズムチェックカード」を活用することで、学校と家庭が連携して、児童の健康面などを見守っていくようにしたい。 保護者は、タブレットやゲーム・スマートフォンなどの使用のきまりを家庭で決め、我が子の利用状況を把握している。	3.5	2.9	3.5	3.2	2.9	・家庭の教育力の更なる向上。 ・スマートフォン依存、ゲーム依存からの脱却。 ・参観出席率の向上。 ・児童・保護者と教師の評価差については、目指す児童像と同じ傾向があるためではないかと考えます。 ・保護者にも十分でないと自覚があると感じるとともに、日常生活に追われるなど、余裕もないのではないかと想像します。 ・学校園の野菜作り、ばんぱ踊りの運動会での保護者の参加、餅つき会での保護者の参加など、積極性も見られ、子どもたちにも繋がっていくと思います。 ・個人的にはまだまだ力及ばずですが、Pとしての役割は、それなりに頑張ったかなと思っています。 ・子どもたちと同様に保護者も多様な存在である。加えて理想とする「親」のイメージをもつ保護者がどの程度おられるのか分からない。私の関わる保護者も千差万別で、頑張っている方もおられれば、ネグレクト気味の方もいる。しかしながら、現代社会における家庭教育は限界で、世帯の孤立もワンオペ育児も解消の兆しは見えない。学校や支援者側がいくらお願いしてもできない(やらない)保護者のほんどの要因となっている。もっと多くの機会で家庭へ出向くアウトリーチ支援が必要である。学校ももっと家庭訪問すべきである。
	保護者	○ 家庭教育やPTA活動等に関する評価については、特に、保護者と教師が同程度の評価であるという結果になっている。 子育てに関する講演会など、関係機関からの案内をプリントやマチコミで案内しているが、参加状況については把握できていない。今後、学校側として保護者と共に子育てに関する学びの場を設定したり、懇談会の折に子育ての悩みやアイデアなどについて情報交換できる機会を作ったりしていきたい。また、PTA活動の充実に繋げていくためにも、保護者と教員がより顔見知りになり、子どもを共に育していくようにしていきたい。	3.6	2.6	2.7			
	保護者	○ 家庭教育やPTA活動等に関する評価については、特に、保護者と教師が同程度の評価であるという結果になっている。 子育てに関する講演会など、関係機関からの案内をプリントやマチコミで案内しているが、参加状況については把握できていない。今後、学校側として保護者と共に子育てに関する学びの場を設定したり、懇談会の折に子育ての悩みやアイデアなどについて情報交換できる機会を作ったりしていきたい。また、PTA活動の充実に繋げていくためにも、保護者と教員がより顔見知りになり、子どもを共に育していくようにしていきたい。	3.2	2.9	2.7			

【まとめ及び今後の方策】「自己評価」や「学校運営協議会委員評価」で挙げられた課題及び改善点を次年度の教育課程に反映させ、特に、次のことに取り組んでいく。

- ① 授業づくりの工夫・改善及びICT教育の効果的な指導の工夫
- ② あいさつやきまりなどの基本的な生活習慣の育成
- ③ 健康・安全にかかる指導の充実(SNS・ゲーム・交通安全等)
- ④ 家庭・地域・学校のさらなる連携強化(コミュニケーション・スクールの充実)